

# かべ あな だい いち わ 壁の穴、第一話



「腹減った〜!」と、僕は伸びをした。そして布団から起き上がった。壁の穴の中は、まだ薄暗かった。僕の隣の布団で、妹は まだ ぐっすりと眠っていた。父ちゃんと母ちゃんも、まだ起きていないようだった。でも、僕のお腹はグーっと鳴って、「そろそろ、朝ごはんを探しに行く時間だ」と知らせていた。

僕達の家は、壁の裏の狭い空洞だ。僕は、その壁の小さな穴から、そっと顔を出した。そして、右と左をゆっくりと確認した。壁の穴の外では、決して音を立ててはいけない。目立つ行動も禁止だ。そして、壁の穴に戻って来る時は、決して誰にも見られてはいけない。これが、この壁の穴のルール。そう、僕の家のだ。

ここに引<sup>ひ</sup>越<sup>こ</sup>して来<sup>き</sup>たのは、ちょうど 3 か月<sup>かげつ</sup> 前<sup>せま</sup>だった。  
前に 住<sup>す</sup>んで いた 穴<sup>あな</sup>は、ここよりも かなり 狭<sup>せま</sup>かった。  
遊<sup>あそ</sup>べる スペースなんて、全<sup>ま</sup>く なかった。そして、妹<sup>いもうと</sup> 達<sup>たち</sup>が  
3 匹<sup>びき</sup>も 生<sup>う</sup>まれて、も<sup>ま</sup>っと 窮<sup>きゆう</sup>屈<sup>くつ</sup>にな<sup>に</sup>った。そんな時<sup>とき</sup>、人<sup>にん</sup>間<sup>げん</sup>に  
見<sup>み</sup>つかってしま<sup>し</sup>ったんだ。

## Vokabular

### Bitno

眠る <i>glagol (五)</i> • spavati	ねむる	音を立てる <i>glagol (一)</i> • bučiti, proizvesti zvuk	おとをたてる
探す <i>glagol (五)</i> • tražiti	さがす	目立つ <i>glagol (五)</i> • isticati se, odstupati	めだつ
知らせる <i>glagol (一)</i> • obavjestiti	しらせる	行動 <i>imenica, suru-glagol, no-pridjev</i> • pokret, ponašanje	こうどう
顔を出す <i>fraza, glagol (五)</i> • pokazati se	かおをだす	禁止 <i>imenica, suru-glagol</i> • zabrana	きんし
確認 <i>imenica, suru-glagol</i> • potvrda	かくにん	全く <i>prilog</i> • uistinu	まったく
決して <i>prilog</i> • nikad	けっして	窮屈 <i>imenica, na-pridjev</i> • skučen	きゅうくつ

## Ostalo

壁 <i>imenica</i> • zid	かべ	伸び <i>imenica, suru-glagol</i> • istezanje	のび
穴 <i>imenica</i> • rupa	あな	布団 <i>imenica</i> • futon	ふとん
第 <i>prefiks</i> • prefiks za tvorbu rednih brojeva	だい	起き上がる <i>glagol (五)</i> • ustati	おきあがる
一話 <i>brojač</i> • prva epizoda	いちわ	中 <i>imenica, no-pridjev, prilog</i> • unutra	なか
腹 <i>imenica</i> • trbuh	はら	薄暗い <i>i-pridjev</i> • mračan, sumoran	うすぐらい
減る <i>glagol (五)</i> • smanjiti se	へる	隣 <i>imenica</i> • pored, susjedno, kuća do	となり
腹が減る <i>izraz, glagol (五)</i> • postati gladan, kolokvijalno	はらがへる	妹 <i>imenica</i> • mlađa sestra	いもうと
僕 <i>zamjenica</i> • ja, muški	ぼく	父ちゃん <i>imenica</i> • tata	とうちゃん
		母ちゃん <i>imenica</i> • mama	かあちゃん

起きる <i>glagol (一)</i> • ustati	おきる	狭い <i>i-pridjev</i> • uzak	せまい
お腹 <i>imenica</i> • trbuh	おなか	空洞 <i>imenica</i> • pukotina	くうどう
鳴る <i>glagol (五)</i> • zvoniti, odjekivati	なる	小さな <i>na-pridjev</i> • mala	ちいさな
朝ごはん <i>imenica</i> • doručak	あさごはん	右 <i>imenica</i> • desno	みぎ
行く <i>glagol (五)</i> • ići	いく	左 <i>imenica</i> • lijevo	ひだり
時間 <i>imenica</i> • vrijeme (period)	じかん	外 <i>imenica</i> • vani	そと
僕達 <i>zamjenica</i> • mi	ぼくたち	戻って来る <i>fraza</i> • vratiti se	もどってくる
家 <i>imenica</i> • kuća	いえ	時 <i>imenica</i> • vrijeme	とき
裏 <i>imenica</i> • dno	うら	誰にも <i>izraz</i> • nikome/svakome	だれにも

見る  
*glagol (一)*  
• vidjeti

みる

住む  
*glagol (五)*  
• stanovati

すむ

掟  
*imenica*  
• zakon

おきて

遊ぶ  
*glagol (五)*  
• igrati se

あそぶ

引っ越す  
*glagol (五)*  
• seliti se

ひっこす

3匹  
*brojač*  
• 3 male životinje

さんびき

来る  
*nepravilan glagol*  
• doći

くる

生まれる  
*glagol (一)*  
• roditi se

うまれる

か月  
*brojač*  
• broj mjeseci

かげつ

人間  
*imenica*  
• čovjek

にんげん

前  
*priložna imenica*  
• prije

まえ

見つかる  
*glagol (五)*  
• biti nađen

みつかる

## Domaća zadaća

1. Napišite kratku priču ili par rečenica koristeći riječi iz kutije ispod. Rečenice ili tekst ne moraju nužno biti vezane uz samu vijest.

探す ・ 顔を出す ・ 確認 ・ 決して ・ 行動 ・ 全く

---

---

---

---

---

---

---

2. Odgovorite na pitanja:

(i) <sup>かた</sup>語り手<sup>て</sup>は誰<sup>だれ</sup>だと思<sup>おも</sup>いますか？

---

---

(ii) <sup>かべ</sup>壁<sup>あな</sup>の穴<sup>じゅうにん</sup>の中の住人<sup>なんびき</sup>は何匹いますか？

---

---

(iii) <sup>かた</sup>語り手<sup>て</sup>は何<sup>なニ</sup>をする積<sup>つも</sup>りですか？

---

---

(iv) <sup>かた</sup>語り手<sup>て</sup>の家<sup>いえ</sup>の掟<sup>おきて</sup>は何<sup>なん</sup>ですか？

---

(v) いつ今の穴に引越してきたのですか？

(vi) 前の穴はどんな穴でしたか？

3. Nadopunite sljedeće rečenice riječima iz kutije ispod:

眠っていた ・ 探している ・ 知らせました  
顔を出さない ・ 確認して ・ 決して ・ 音を立てた  
目立つ ・ 行動 ・ 禁止 ・ 全く ・ 窮屈

- (i) 花子ちゃん、花子ちゃん、昨日いつまで\_\_\_\_\_？
- (ii) 田中おじいちゃん、うちの犬を\_\_\_\_\_んだけど、見かけましたか？
- (iii) 先生にこの事は\_\_\_\_\_か？
- (iv) たまには店にも\_\_\_\_\_と叱られるのさ。
- (v) 死体を棺桶に入れる前はまだ生きているかどうか\_\_\_\_\_ください。
- (vi) 私のポテチには\_\_\_\_\_手を出すな、痛い目を見るよ。
- (vii) 小屋の屋根は雪の重みでミシミシと\_\_\_\_\_。
- (viii) 林に竹が\_\_\_\_\_！
- (ix) 人間は狂っていれば\_\_\_\_\_の責任は問われない。
- (x) 武君は暗い道を歩きながら変な音を聞いて後ろを向いた、築けば立ち入り\_\_\_\_\_のサインに囲まれていた。
- (xi) ドラゴンマーテはほかのドラゴンから\_\_\_\_\_違う生活をしていた。
- (xii) 列車のコンパートメントはすぐ\_\_\_\_\_になる。